

はしがき

Chapter1 刑事制度

- 1 刑務所への道のり 001
警察による犯罪対応／検察における犯罪処理／裁判による犯罪処理／刑罰の執行
- 2 ダイバージョン 008
犯罪対応の量的把握／ダイバージョンの意義／ダイバージョンの問題点
- 3 犯罪対策 013
刑務所に入るのは誰か／犯罪対策は暴力である／対策の統制／広義の犯罪対策
- 4 刑事制度の目的 016
刑事制度の作動とあるべき刑事制度／刑事制度の目的と犯罪処理の指導理念／医療モデル／正義モデル／威嚇・抑止モデル

Chapter2 犯罪という現象

- 1 犯罪統計 024
発生件数／認知件数／検挙率／受刑者数／刑務所に入るのは誰か
- 2 犯罪現象 030
犯罪はそこにあるか／犯罪とはどのようなものか／法執行による犯罪化／立法による犯罪化
- 3 犯罪の原因 036
社会解体論／学習理論／緊張理論／統合理論／新しい理論／新古典派犯罪学の理論
- 4 犯罪をみる視点 048
刑事政策学は誰の側に立つべきか／刑事政策は犯罪ゼロを目指すべきか

Chapter3 刑罰制度

1 犯罪と刑罰, そして罪刑法定主義	051
2 刑罰の本質を考える	051
3 刑罰の本質と目的: 何のために刑罰を科すのか	052
古典学派と応報刑論/近代学派と目的刑論	
4 国家刑罰権の成立	053
封建制度下の刑罰/拘禁刑の出現/監獄改良運動	
5 刑罰の種類	057
死刑/死刑存置論vs死刑廃止論/国際社会と死刑: 死刑制度存置はメジャーかマイナーか/死刑と民意/被害者遺族と死刑/裁判員制度と死刑: 全員一致でなくてもOK?/死刑と代替刑/自由刑/自由刑をめぐるいくつかの議論/財産刑/執行猶予/刑罰に類似の制裁/刑罰の付随効果: いつまでスティグマは残る?	

Chapter4 犯罪をした人への処遇

1 犯罪をした人への「処遇」についての考え方	078
「処遇」とは何か/「処遇」は本人を社会復帰させうるか/社会復帰するのは誰か: 処遇論の変遷と発展	
2 施設内処遇	083
刑事施設の概要/日本の刑務所被収容者の生活/受刑者の法的地位/個別処遇の原則と矯正処遇(作業, 改善指導, 教科指導)の概要/矯正処遇の法的性格/「規律秩序」の維持と受刑者の権利の制約	
3 社会内処遇	091
更生保護に関する法律と理念の変容/「改善更生」の目指すところと更生保護の歴史/更生保護の位置付けと対象者の法的地位/更生保護の抱える葛藤: 保護観察における「有権的ケースワーク」/保護観察の概要/保護観察中にとることのできる措置/協働態勢下における保護観察官と保護司の役割分担/保護観察官や保護司をめぐる課題/仮釈放制度の概要/仮釈放率の低下と仮釈放の意義: 仮釈放の積極化の必要性	
4 近時の日本における刑罰改革の動き	104

Chapter5 犯罪被害者

1 被害者の登場: その歴史的意義	106
-------------------------	-----

被害者とは誰か／被害者の扱われ方

- 2 わが国における被害者保護を概観する 108
犯罪被害者等給付金制度の創設／刑事手続における被害者支援／犯罪被害者保護のための法的整備
- 3 発展する被害者保護政策：犯罪被害者基本法と基本計画 114
被害者の損害回復支援／被害者のPTSDとその精神的支援／被害者参加制度：「当事者」化する被害者／強制起訴につながる検察審査会：被害者にとっての頼みの綱？／弁護士による被害者支援／被害者情報の秘匿と被疑者被告人の防禦／公訴時効の廃止：もはやタイム・リミットはなし？
- 4 被害者支援を多角的に考える 123
マスコミと被害者／地域で行う細やかな被害者支援の実現：被害者支援条例／被害者の声を反映した立法：大きく変わった性犯罪をめぐる法律／被害者の回復を支える社会

Chapter6 非行少年に関わる司法制度と処遇・支援

- 1 少年非行 128
非行少年の定義／少年非行の動向と社会的背景
- 2 少年法の理念と少年司法制度の特徴 131
少年法の理念／非行少年に対する介入を正当化する考え方／少年司法制度の根幹となる特徴
- 3 少年法改正 134
改正前史／2000年改正／2007年改正／2008年改正／2014年改正／2021年改正
- 4 少年審判手続 138
少年非行と警察／少年審判の機能／少年審判の方式
- 5 少年刑事事件の手続 144
刑事処分相当性の判断基準／刑事処分の選択可能性の拡大／少年刑事手続と健全育成／少年に対する刑罰の特則
- 6 非行のある子どもに対する支援・処遇 148
非行のある子どもの地域での支援／非行のある子どもと児童福祉／非行のある子どもの矯正施設での支援・処遇／非行のある子どもの更生支援
- 7 少年犯罪被害者の支援 157
少年矯正における被害者の参加／少年更生保護における被害者の参加

Chater7 刑事司法と犯罪の原因・背景となりうる社会課題へのアプローチ

- 1 「犯罪」という現象の理解と社会課題 159
- 2 ファミリーバイオレンス 160
児童虐待／ドメスティックバイオレンス (Domestic Violence : DV) ／家
族・家庭の問題への社会の関わり方：「介入」と「支援」をめぐって
- 3 社会における貧困と犯罪 165
絶対的貧困と相対的貧困／日本における「相対的貧困」／「相対的貧困」
と「社会的排除」
- 4 犯罪対応とコミュニケーション：犯罪から学ぶ社会のあり方 170
当事者間のコミュニケーション：Therapeutic Community（治療共同体）
による対話／社会と当事者間のコミュニケーション：Restorative Justice
（修復的司法）／RJの理念に基づく多様な実践／コミュニティ・ジャスティ
ス（Community Justice）とRJ：地域を変える裁判所のあり方／RJの理
念やその実践に今学ぶべきこととは

Chapter8 罪を犯した人への支援の理論と実践

- 1 刑事司法と福祉 181
刑事司法と福祉の連携・協働／刑事制度における福祉支援
- 2 犯罪をした人への福祉支援 187
格差社会と刑事政策／犯罪をした精神障害者の支援／犯罪をした高齢者
の支援／犯罪をした外国人の支援
- 3 社会福祉における更生支援の取組みと課題 194
再犯防止推進計画の展開／支援における専門職と民間活動の担い手／刑
事制度から離脱した人々の支援

文献案内 206

事項索引 211